

さいたま市長 5月臨時記者会見

平成25年5月27日（月曜日）

午後1時30分開会

- 進 行 定刻となりましたので、市長臨時記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の産経新聞社さん、進行をよろしく願い
いたします。
- 産経新聞 5月の幹事社、産経新聞と申します。よろしく申し上げます。
では、2期目就任に当たりまして、改めまして抱負をお願いいたします。

市長就任挨拶

- 市 長 皆さん、こんにちは。さいたま市長の清水勇人でございます。
5月19日執行のさいたま市長選挙におきまして、多くの市民の皆様の
温かいご支援をいただきまして、引き続き2期目の市政運営を担わせてい
ただくことになりました。
本日、2期目として初登庁の日を迎えましたが、市長として課せられた
使命と、また責任の重さを改めて痛感し、身が引き締まる思いでいっぱい
でございます。
2期目の新たなスタートに臨んで、今後の市政運営に当たっての決意と
取り組みについてお話をさせていただきたいと思っております。
私は、4年前に初めて市長に就任をした際、さいたま市を「子どもが輝
く“絆”で結ばれたまち」、また「しあわせを実感できるまち」にしてい
こうという目標を掲げて、取り組んでまいりました。
そして、これらを具体的に実現をしていくために、「しあわせ倍増プラン
2009」、また「行財政改革推進プラン2010」を策定し、また約
800か所の現場訪問、学校訪問、タウンミーティング、車座集会など、
多くの方々の意見を拝聴し、市政運営の参考とさせていただき、常に全力
で市政運営に取り組んでまいりました。
その結果、「しあわせ倍増プラン2009」及び「行財政改革推進プラン
2010」に掲げた事業について、おおむね9割を達成することができま
した。

これもひとえに多くの皆様のご理解と、そしてご協力のたまものと深く感謝を申し上げるところでございます。

しかしながら、この4年間を振り返りますと、長引く景気低迷、東日本大震災の発生、少子高齢化など、社会を取り巻く環境は刻々と変化をし、「待機児童の解消」、「公共施設の老朽化」、「新エネルギーの創出」等、新たな課題が顕在化し、これらに迅速かつ適切に取り組む必要が生じてまいりました。

政府の金融政策、財政政策によりまして、株価の上昇など、日本経済に明るい兆しは見えてまいりましたが、少子高齢化の進展によります人口減少社会と超高齢社会が迫ってくるのは間違いないことでありまして、こうしたトレンドを少しでも緩やかにしていくためにも、これからの5年、そして10年、これがさいたま市の将来にとって極めて重要な時期であると認識をしているところであります。

特にさいたま市は、全国の中でも急激に超高齢社会が進んでいくという都市の一つでもあり、特にこれからの5年、10年というのが大変重要であるというふうな強い認識を持っているところであります。

そこで、私は今回の選挙戦を通じまして、さいたま市に住んでいることが誇りに思えるようなまち、「しあわせ実感都市 選ばれる都市」となっていくことを目指して、5つの柱を基本としたまちづくりに取り組んでいくことを市民の皆様にお約束をいたしました。

1つ目は、「東日本の中枢都市構想の推進」でございます。

さいたま市の強みの一つであります東日本の交通の要衝という特性を生かして、より高度な都市機能を集積することによりまして、東日本の中枢都市として市民が誇りに思えるまちづくりを推進してまいります。

2つ目は、「日本一の安心減災都市づくり」でございます。

大規模地震などの自然災害に対しまして、人的被害、経済被害を軽減するため、インフラや公共施設の耐震化、災害時などの情報基盤の整備などに取り組んで、誰もが安心・安全に暮らせる、災害に強いまちづくりを推進していくものでございます。

3つ目は、「日本一の教育文化都市を実現」することでございます。

次世代のさいたま市を担う子どもや青少年が夢や希望に向かってたくま

しく生きていく力を育てていくために、市立高校改革として、中高一貫の中等教育学校の新設、いじめ、自殺防止対策として「心のサポート事業」の推進など、さまざまな取り組みを実施してまいります。

また、文化芸術都市創造条例を生かしたさいたまトリエンナーレの開催などによりまして、日本一の教育文化都市を実現するものでございます。

4つ目は、「環境未来都市の実現」であります。

太陽光・小水力・ごみ・バイオマス発電などのクリーンな「再生可能エネルギー」の導入・普及を促進するとともに、「次世代自動車・スマートエネルギー特区」に関する取り組みを推進してまいります。

また、首都圏に残る本市の財産であります見沼たんぼをはじめとした豊かな自然と共生し、地球環境に負荷の少ない環境未来都市を実現してまいります。

5つ目は、「健幸都市づくり」であります。

この健幸の「けん」は健康の健に、「こう」は幸せと書いた健幸都市づくりでございます。

全ての市民が健康を維持し、自立して暮らすことができるように、健康づくりや介護予防に積極的に取り組んでいこうというものであります。

また、病気になっても住みなれた地域で質の高い医療サービスが得られるように、小児・周産期医療や救急医療などの充実・強化を図り、誰もが健康で幸せに暮らせる、長生きができる「健幸都市」を実現してまいります。

そして、私は「しあわせ実感都市」を実現していくために、子どもと親、若者、高齢者、障害者のしあわせ倍増など、11項目で構成をいたします「新しあわせ倍増計画」を策定いたします。

また、「選ばれる都市」を実現するために、国際観光都市戦略「さいたまI C E（まいす）」など、7つのプロジェクトから成る「新成長戦略」をスピーディに推進して、124万市民の皆様がしあわせを実感し、またさいたま市が東日本の中枢都市として一層発展することができるように、全身全霊を傾けて取り組んでまいりたい、このように考えております。

2期目の市政運営に当たりましては、これまでと同様に、市民・事業者・そして行政、この三者がみずからの責任を果たし、ともに考え、そしてと

もに行動していく「責任と共感・共汗」、市民の声、現場の声を大切に
する「徹底した現場主義」、地域に偏らない、しがらみのない「公平・公正・
開かれた市政」という3つの基本姿勢を貫き、これまで積み重ねてきた実
績に自信と誇りを持ち、「市民とともに、まっすぐ。」「しあわせ実感都市
選ばれる都市」の実現を目指してまいります。

今後とも、職員等一丸となりまして、市民の皆様とともにさいたま市の
発展と市民の皆様のしあわせの倍増のために、全力で取り組んでまいりた
いと考えておりますので、引き続き皆様のご支援とご協力を心からお願い
申し上げます、市長就任に当たってのご挨拶とさせていただきます。

私からは以上です。

- 産経新聞 どうもありがとうございました。それでは、市長に質問のある社はどうぞ
お願いいたします。

市長挨拶に対する質問：地下鉄延伸の支持について

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。よろしく申し上げます。
市長、当選会見のときにもおっしゃっていましたが、この4年間
が決断の4年になるということで、何点か挙げられていました。その中で
ですね、地下鉄の延伸に関してなんですが、選挙戦で地下鉄延伸反対を掲
げて戦った候補もいたということで、それに対し、市長が勝利されたとい
うことですね、昨年発表されましたおおむね5年後の延伸については、
有権者、市民の支持を得られたというふうにお考えでしょうか。
- 市長 そうですね。方向性としてはご理解をいただいたというふうに認識を
しておりますが、ただいずれにしましても、この43の方策をしっかりと駆
使しながら、やはり事業採算性ということも十分に踏まえて実現をしてい
きたいと考えておりますので、そういったことについても、随時市民の皆
さんに情報提供して理解をしていただきながら、しっかりと実現をしてい
きたい、進めていきたい、このように思っています。

市長挨拶に対する質問：新庁舎審議会の結論について

- 埼玉新聞 済みません、続いてもう一点ですね、決断に関する事で、新庁舎の審
議会がおおむね2年間の審議を経て結論を出すと思うんですけども、こ

の市長の次の2期目の4年間中にですね、新庁舎の移転の位置を含めて、何らかの決断を下すというふうなお考えでしょうか。

○ 市長 その辺の期間等については、審議会のほうにお任せをしながら、これ大変シンボリックな問題でもありますから、やはり多くの市民の皆さんのご理解をいただく、そういったプロセスも当然必要になりますので、そういったことも踏まえてやっていく必要があると思っておりますので、その中で2年になるのか、3年になるのか、あるいはどういうタイミングになるのかですね、その辺は審議会の中で十分ご議論いただきながら、多くの市民の皆さんにも入ってご議論いただいておりますので、その中で方向性が示されてくるものだと思っております。その中で決断をしなければいけない時期には決断をするということになると思います。

○ 埼玉新聞 昨年審議会設立に当たってですね、おおむね2年以上の審議が必要というふうな見通しを持たれていましたけれども、さらにそれ3年、4年と長くなる可能性もありということでしょうか。

○ 市長 2年以上という言い方を記者団も今お話しされたように、市民にとって非常にシンボリックな問題でありますから、理解をそれぞれしていただきながら進めていくということが大切だと思っておりますので、拙速にやるというよりは、しっかりとご議論いただいたり、あるいはそういったご理解をいただくプロセスなどを踏まえてやっていくことが必要だと考えております。

ですから、期間ということについては、もちろんそこから大幅にずれ込むということではありませんけれども、最低2年、やはりそれ以上かけながら慎重に審議をし、ご理解を深めていくということをしていく必要があるんじゃないかというふうには思っております。

○ 埼玉新聞 済みません、もう一点だけ。

今の問題でですね、その審議会の委員の間でですね、あるいは新庁舎のあり方を審議するということですが、その審議するに当たって、前提となる、ここでそのまま継続するのか、それとも移転するのか、その移転の位置はというですね、大前提が定まらないと、非常に審議しにくいという意見がですね、多くの委員から出ていたと思うんですよ。少なくとも移転の是非というか、可否ですか、その場所も含めてですね、それある程度方

向性を決めて、さらに詳細について審議会に委ねるとかということもあり得るんでしょうかね、それともずっと最後まで、答申が出るまで、移転するかどうかも方向性出さないまんま、その審議会の審議は進んでいくことになるんでしょうか。

○ 市長 これは、道州制の議論などでもそうだと思うんですけどね、先に枠組をやると、それだけで賛否の話が出てきてしまいます。

ですから、まずは本庁舎のこれからあり方 (について) ですね。どういう機能があったほうがいいのかとか、あるいはこれからどういう時代を見据えて、どういうものが必要なのかとか、やはりそういった (ある) べき論をしっかりと踏まえておく必要が私はあると思っております。

それをやった上で、最終的には場所も決定をしていくということが必要で、初めに場所の議論をしてしまうと、その先がなかなか行きづらいということがあると思いますので、まずはその部分も十分ご議論していただいた上で、場所についてご決定、その中でどこがふさわしいのかと、機能が定まらないとどういった場所がいいのかということも当然定まりにくいということになると思います。ですので、まずはあるべき姿というものを十分ご議論いただくことが私は大前提になると。

○ 埼玉新聞 ありがとうございます。

市長挨拶に対する質問：

① 橋下大阪市長の発言について

② 競馬日本ダービーで「キズナ」が1着となったことについて

○ 時事通信 時事通信です。お願いします。2点伺います。

1点目が、橋下徹大阪市長の発言についてです。ご存じのように、従軍慰安婦や性風俗業に関してですね、物議を醸す発言がありまして、きょう外国特派員協会で見会をしていますけれども、この一連の橋下市長の発言についてですね、同じ政令市長としてどのように受けとめていらっしゃるのか、どのようにお考えになっているのかということと、あと2点目、ちょっと緩い質問で大変恐縮なんですけども、きのうの日本ダービーですね、武豊騎手騎乗のキズナという馬が1着になりまして、たしか市長の選

挙戦ののぼり旗、それからスローガンというんでしょうか、絆だったかと思うんですが、それにあやかってみたくか、何かめぐり合わせみたいなものを感じていらっしゃったら、一言いただけたらと思います。

○ 市長 まず、1点目の橋下市長についてのコメントについては、できれば今日は臨時会見ということで、市政に係ることについてお話をさせていただきたいと思うので、ちょっとごコメントについてはご容赦ください。

それから、絆についてはですね、これはめぐり合わせだろうと思いますが、ちなみに選挙戦のスローガンではありません。この絆という言葉自体は特に東日本の大震災以来、今、日本の社会ですごく大切なキーワードの一つになっているんだろうと思います。ですので、キズナのお父さんですかね、有名な馬……

○ 事務局 ディープインパクトです。

○ 市長 ディープインパクトの子供でありますから、いろんな名前が候補にあったんだろうと思いますけども、ちょっとその名前の経緯は私もわかりませんが、でも非常に大切な言葉ということで、馬主さんがつけられたんだろうと思います。

ですから、その馬が勝ったということは、いろんな因縁めいたものは感じますが、ただこれは私自身ということだけではなくて、日本にとってすごく大切な言葉ということを改めて、そういった競馬の馬の名前から感じていただけたんではないかなというふうに思っております。

市長挨拶に対する質問：

① 初登庁に自転車で来られた理由について

② 幹部職員に対する挨拶にこめられた思いについて

○ 毎日新聞 毎日新聞です。

2点お伺いしたいんですが、まず1点目が、きょう登庁されるときに自転車でいらっしゃったということで、ツールドフランスのPRを兼ねてということで伺っているんですが、改めてその意味と、あと実際に乗ってみてのご感想を伺いたいというのが1点と、あともう一点目がですね、幹部職員の方へのご挨拶の中で、市長がたくさんの市民から支持をいただいたということですか、先ほどもおっしゃっていましたが、実績に自信を持

ちというようなことを強調されていたように思いまして、2期目に強いリーダーシップを発揮するという決意表明のようにも受け取れたんですが、そのあたり込められた思いがありましたらお聞かせください。

○ 市 長

まず、1点目の自転車で登庁したことの意味ですけども、1つは今お話がありましたように、今年10月26日にさいたま「クリテリムbyツールドフランス」という大会を開催させていただくことになっておりまして、さいたま市は、1つはこれをシティセールスの今年度の一つの大きなテーマになるだろうと思っております、やはりこれを開催すること。

それから開催することの意味ですね。

これは単に国際的な自転車レースを開催するというだけでなく、ツールドフランスの記者会見などでも言っていますが、乗り物としての自転車のよさというんでしょうか、環境にもいいですし、また健康にもいいという部分がありますので、この自転車のまちづくりというものをさいたま市としてもこの大会を一つのシンボルとして、自転車が乗りやすい環境づくりを積極的に行っていきたいという思いもあって、私自身は今日はさいたま新都心から20分ぐらいかけて来たんですけど、途中で多少乗りやすい環境があるかどうかという道路の状況なども見ながら来ましたけれども、今自転車を利用して、通勤をされたり、活用されたりする方が非常に多いので、やはり安全に、快適に乗れる環境づくりということもあわせてやっていく必要があるということを改めて痛感をしたところでもあります。

また、約20分ちょっとぐらいでしたけれども、非常に快適で、今日はまた天気がよかったこともありまして、非常に清々しく市役所までたどり着くことができました。時々これからも自転車通勤をやりたいなというふうに思っております。

あともう一つが、2期目に向かってのリーダーシップというお話でございました。1期目は、先ほどもお話をしたとおりおかげさまで、これは私自身の力だけではなくて、職員、それから市民の皆さんのご理解、ご協力によって、お約束をしてきたマニフェスト、あるいは行財政改革について約9割達成することができたということについては、一つそれなりに実績を上げられたとは思っております。

ただ、その4年間のことだけではなくて、さいたま市は政令市になって、あるいはそれ以前の各市の中でやってきたことなども含めて、どちらかというとなら全体的に奥ゆかしいところがあるので、積極的にさいたま市のよきみみたいなことを余りPRしてくることが少なかったように思います。

でも、これからはもちろん改善をしなければいけないこともたくさんありますけども、でもいいことはもっともっとやっぱり発信をして、さいたま市民の皆さんや、あるいは市外の方々にもお伝えをしていきたいという、そんな思いで私自身は言葉にさせていただいたところでもあります。

それから、リーダーシップについては、もちろんリーダーシップが大切だというふうにも思っておりますし、またあわせて、一人ではやっぱり何もできないところがあります。市民、それから職員とも一丸となって、ともにやっていくというスタンスもやっぱり忘れずにやっていきたいと思っております。

○ 毎日新聞 ただ、ご挨拶の中で市民の支持をいただいたというところに市長の、今回17万という票をもらったという点では、市民の声を受けたという点で自信を持って、これまで以上にリーダーシップを発揮していくということなのかなというふうにも受け取ったんですが、そういうこと……

○ 市 長 そうですね、そういう意味ではたくさんの皆さんからご支持をいただいた。特に私自身は、この4年間さいたま市を一つにしたいという思いで、いわゆる旧市のいろんな思いをできるだけなくせるように、市民の心を一つにしたいという思いです。ずっとやってきましたけれども、そういう意味では票の数もそうですし、いわゆる旧市でいうそれぞれの市で、多分4回目の選挙で初めてだろうと思いますけども、全部の市で1番になることができたということは、これは本当にありがたいことでもありますし、さいたま市が新しい時代に向けた第一歩を踏み出せる、そういった選挙になったんじゃないかという思いを持っています。

市長挨拶に対する質問：2期目の議会運営について

○テレビ埼玉 2期目の議会運営に関してなんですけれども、先ほど市議会の萩原議長をお訪ねになったときにですね、萩原さんのほうから、市民のためになるよう市長と一緒に考えていきたいというような言葉があったと思うんです

けれども、これはちょっと歩み寄りの姿勢というような感じがしたんですけど、今後の議会運営について追い風になったというふうにお考えでしょうか。

あともう一点、自民党市議団のほうも訪ねておられましたけど、ちょっと取材ができなかったんですが、どういった言葉を交わされたんでしょうか、その2点についてお願いします。

○ 市 長

1点目、議会との関係についてはですね、1期目もそうでありましたけれども、基本的には私自身は特定の党派や、あるいは会派に偏らずに市民の幸せを実現していくというスタンスの中で議会運営もさせていただいてきたつもりではおります。ただ、途中誤解があったりとか、いろんなことがあったとは思っておりますけども。

ただ、今回2期目になって、私自身が掲げていた政策であるとか、そういったものと方向性がそれほど大きく変わらない会派の方が多かったように思っておりますので、そういった部分については当然市民のために一緒に協力をしていただけたところもあるでしょうし、またもちろん議会と首長は二元代表制ということで、それぞれの役割、あるいは権限、こういったものがございますから、その中で議論をされ、市民のためになるような決定が行われるということが最も望ましいと思っておりますので、そういった中でより円滑な関係づくりをしっかりとやっていきたいと思っております。

それから、自民党市議団のところに入ったときには、私のほうからご挨拶をさせていただいて、お疲れさまぐらいはあったかもしれませんが。特に余り言葉を具体的に、何かを交わすというようなことではありませんでした。

市長挨拶に対する質問：新しあわせ倍増計画等を市の政策としてまとめる時期について

○日本経済新聞

日本経済新聞です。

11項目の新しあわせ倍増計画と7つの成長戦略というのは、今後どのぐらいのタイミングで市の政策に落とし込むような計画、実施計画だったり、アクションプランだったりになる予定でお考えでしょうか。

○ 市 長 1つは、まず新しあわせ倍増計画についてはやはり行政のプランにしていきたいと考えておまして、これをきちっと数値目標も含めて形にできるのは秋前後かなと。

ただ、これが行政計画ということになると、パブリックコメントの関係であるとか、あるいは議会との関係が出てきますので、最終的にきちっとした形でできるのは、もしかしたら12月ぐらいになるかもしれません。

それから、新成長戦略については、これは計画をつくることよりもよりスピーディーに運営をしていくことが大変重要だと思っております。もちろんその中で、より詳細に詰めていかなければいけない部分もありますので、そういった部分はもちろん計画であるとか、あるいは構想等にきちっと落とし込まなきゃいけないと思っておりますけども、それ以外についてはむしろできるだけスピードアップをしていくための運営のほうに力を入れて、そういった本部であるとか、あるいはチームといったものをつくって進めていきたいと思っております。

市長挨拶に対する質問：特別職の人事について

○日本経済新聞 特別職の人事については、1期目の実績というものを強調されているところから、今のチームのままお考えなのか、それともチームの形を刷新して2期目の取り組みなのか、お考えを伺えればと思います。

○ 市 長 現時点では、まだそこまでは考えておりません。

○ 産経新聞 ほかによろしいでしょうか。

じゃ、どうもありがとうございました。

○ 進 行 以上をもちまして、臨時記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の定例会見につきましては6月6日木曜日、13時30分から予定をしておりますので、よろしくお願いをいたします。どうもお疲れさまでございました。

○ 市 長 また4年間よろしくお願いたします。

午後1時56分閉会

※ この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正等された文言等については（ ）あるいは「会見後訂正」とし、下線を付しています。